

新型コロナウイルスに関連した肺炎について

保健福祉部

今回の中華人民共和国武漢市における新型コロナウイルスに関連した感染症について、昨年12月以降、新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者が複数確認されており、日本でも感染者が確認されているところです。今後のさらなる感染拡大の防止に向けて、道では、対策を強化するとともに、道民や関係機関の皆さまへの注意喚起を徹底し、対応の協力を依頼してまいります。

1 発生状況等について（R2.1.21 6時時点厚労省の発表）

	中国					タイ	韓国	日本
	武漢市	北京市	広東州	上海市	小計			
患者 (222名)	198名	5名	14名	1名	218名	2名	1名	1名
-軽症	125名	—	8名	—		—	—	0名
-重症	44名	—	6名	—		—	—	0名
-退院・治癒	25名	1名	0名	—		—	—	1名
-死亡	4名	—	0名	—	4名	—	—	0名
健康観察	90名 727名解除	—	—	—	90名	—	—	41名

- 新型コロナウイルスに関連した感染症による死亡例は、中国での4例。
- 持続的なヒトからヒトへの感染は確認されていない。
(家族間などの限定的なヒトからヒトへの感染の可能性は否定できない。)
- 日本での感染者については、1月15日に症状が軽快し退院。

2 国の対応

- (1) 着実な検疫の実施及び強化（質問票の配布、機内アナウンスの拡大、健康カードの配布等の強化）
- (2) 国内における感染拡大防止に向けた対策の強化（地方自治体、医療機関と連携）
- (3) 国民への情報提供
- (4) その他（WHO や国立感染症研究所のリスク評価に応じて今後対策を強化）

3 道の対応

- (1) 道立保健所を通じ、医療機関へ国の通知に基づき発生時対応を通知しており、今後も随時通知
- (2) 新型コロナウイルス検査のために国立感染症研究所に保健所から検体を送付する体制の確認、徹底
- (3) 道民の皆様への情報提供、注意喚起
 - (ア) 1月16日ホームページ等により道民の皆様への注意喚起
 - (イ) 春節を迎えて多数の方々が利用する宿泊施設、飲食店、遊技施設、北海道外国人相談センター等への注意喚起を徹底する。

● 道民の皆様へ

- ・風邪やインフルエンザが多い時期であることを踏まえ、咳エチケットや手洗い等、通常の感染症対策を行うことが重要です。
- ・武漢市などから帰国・入国される方で、咳や発熱等の症状がある場合は、マスクを着用する等し、武漢市への滞在歴があることを申告した上、速やかに医療機関を受診して下さい。

ヒトに感染するコロナウイルスについて

ヒトに感染するコロナウイルスとしては、風邪のウイルス 4 種類と、動物から感染する重症肺炎ウイルス 2 種類が知られています。

(1) 風邪のコロナウイルス (HCoV-229E、HCoV-OC43、HCoV-NL63、HCoV-HKU1)

風邪の 10~15% (流行期 35%) は、これら 4 種のウイルスが原因となる。冬期に流行のピークがみられ、ほとんどの子どもは 6 歳までに感染を経験する。

多くは軽症だが、高熱を引き起こす場合もある。

(2) 重症急性呼吸器症候群 (SARS) コロナウイルス

2002 年に中国広東省で発生し、その後、30 を超える国や地域に拡大し、WHO の報告によると、疑い例を含む患者は 8,069 人、うち 775 人が重症の肺炎で死亡した。

当時は感染源として、ハクビシンが疑われていたが、現在ではキクガシラコウモリが自然宿主であると考えられている。

(3) 中東呼吸器症候群 (MERS) コロナウイルス

ヒトコブラクダに風邪症状を引き起こすウイルスであるが、ヒトにも感染し、重症肺炎を引き起こすと考えられている。

最初の患者は 2012 年、サウジアラビアで発見され、これまでに 27 カ国で 2,494 人の感染者が確認され、うち 858 人が死亡した。